

令和8年11月吉日

保護者各位

札幌市立元町小学校

校長 林 潤一

全国学力・学習状況調査の結果分析及び説明について

日ごとに秋の深まりを感じるころとなりましたが、皆様ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。さて、令和8年4月23日（木）に小学校6年生と中学校3年生を対象に行われました全国学力・学習状況調査（質問紙調査は4月24日実施）について、全国の調査結果と北海道の調査結果の概要を基にして、本校の調査結果について分析をいたしましたのでお知らせいたします。なお、本調査結果は、学力の中の特定の一部分に基づくものであり、全ての学力を網羅し評定を示すものではありません。また、本校で対象となりました6年生の保護者の皆様には、既に個人票を配付しております。

1. 結果分析について

（1）分析の方法について

- ① 国語・算数について、それぞれの内容や領域ごとに自校の平均正答率を全国平均と比較する。
- ② 比較に当たっては、全国平均との差を下記の「比較値」を用いて表記する。

「比較値」

 - ・ +3.1 ポイント以上 ⇒ 「上回っている」
 - ・ +3.0 ポイントの範囲内 ⇒ 「ほぼ同程度であるが、やや上回っている」
 - ・ 全国平均と同じ ⇒ 「ほぼ同程度である」
 - ・ -3.0 ポイントの範囲内 ⇒ 「ほぼ同程度であるが、やや下回っている」
 - ・ -3.1 ポイント以下 ⇒ 「下回っている」
- ③ その他
 - ・ 特徴的な傾向について分析する。

（2）「課題」及び「改善の方向」の作成

「課題」は小学校6年生のみの課題としてではなく、学校全体の課題として捉え、今後、全学年を通じて改善していくものとする。「改善の方向」は、課題に対する具体的な解決策とする。

【国語】

本校の概要

【学習指導要領の内容より】

□『知識及び技能』

◇「言葉の特徴や使い方に 関する事項」

- ・全国平均を下回っている。

◇「情報の扱い方に関する 事項」

- ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

□『思考力・判断力・表現力等』

◇「話すこと・聞くこと」

- ・全国平均を下回っている。

◇「書くこと」

- ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

◇「読むこと」

- ・全国平均を下回っている。

今回の調査における課題

- 漢字など言語に関する知識を深め、適切に書いたり、活用したりすること

- 収集した資料や情報から必要な要素を正確に抜き出し、相手に伝わる文章構成や表現を工夫して書くこと

- 話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめること

- 目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるよう書き表し方を工夫することができること

- 目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができること

改善の方向

○前学年までに習った漢字を日常生活や文章記述の中で正しく活用する指導の強化

○目的や条件に応じて情報を選び出し、相手を意識した書き出しや構成を考えて書く学習の充実

○話し合った内容を短くまとめたり、資料の読み取り方を高めたりする学習の充実

○伝えたいことの中心を明確にし、より効果的に伝わるよう段落相互の関係を意識して書く指導の強化

○図表と文章を関連付けて読み取り、必要な情報を的確に整理・把握する力を高める学習の充実

【算数】

本校の概要

【学習指導要領の領域より】

◇「数と計算」

- ・全国平均を下回っている。

◇「図形」

- ・全国平均を下回っている。

◇「測定」

- ・全国平均を下回っている。

◇「変化と関係」

- ・全国平均を下回っている。

◇「データの活用」

- ・全国平均を下回っている。

今回の調査における課題

- 四捨五入による概数の処理や、異分母分数の大小判断における根拠の言語化・記述

- 立方体の体積を求める公式の適用（式化）や、直方体を構成する面の対応関係の正確な把握

- 条件に合わせて必要な時間を組み立て・算出する処理

- 割合（基準量の算出）の理解や、割合の関係を表す図の選択

- 二次元の表からの条件に合う数値の読み取り、帯グラフのおよその割合把握、表の誤りを根拠とともに説明する記述

改善の方向

- 計算手順の習得にとどまらず、判断根拠や理由を文や言葉で明確に説明・記述する指導の強化

- 実物や展開図の操作・観察を通して面や辺の対応関係を視覚的に把握させ、公式の意味を捉えることのできる学習の充実

- 問題の条件を数直線や図に整理・可視化する学習の充実

- 「基準量」と「比較量」の関係を線分図や関係図に正しく表す場面を増やし、基準量を捉えて立式に繋げる指導の強化

- 二次元表やグラフから多角的に情報を読み取る経験を重ね、数値の矛盾や誤りを根拠とともに筋道立てて考えることのできる指導の強化

【児童質問紙調査】

学習や生活の様子について質問した結果です。全体の傾向としては、多くの項目で全国と同様の傾向にありますが、質問項目によっては大きな差も見られました。今回は全国と比較して、選択した結果の差の大きい質問の項目をいくつかお知らせいたします。

全国に比べて肯定的な回答の多い質問事項
○インターネットを使って情報を収集することができますか。
○ICT 機器を使って学校での活動でプレゼンテーションを作成することができますか。
全国に比べて否定的な回答の多い質問事項
●1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機などでSNSや動画視聴などをしますか。
●算数の勉強は好きですか。
●分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え工夫することはできていますか。
●5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。
●学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。



情報化社会の影響により、子どもたちにとってICT機器が身近となり、家庭や学校で扱う機会が多くなっています。その生活習慣の積み重ねが、必要な情報を収集したり、プレゼンテーションを作成したりすることへの肯定的な回答に繋がったと感じています。ただ、その一方で1日当たりの動画視聴の時間が全国や北海道よりも長いという回答となり、心身の健康状態を危惧します。ぜひ、各御家庭で使用時間などをお子さんと見つめる機会にしていきたいと思います。

また、学習面において、否定的・消極的な回答が見られました。札幌市で大事にしている課題解決学習を今まで以上に心掛けるとともに、子どもたち自身が課題をもち、解決に向けて試行錯誤しようとする学びに繋げていきたいと思っています。そのために、ICT機器を利活用しながら学びの足跡を意識し、よりよい学び方の方向を示したり、価値付けたりするなどの関わりを大事にして授業に取り組んでいきます。